

⑤ 荻田家住宅及び酒造場

市指定史跡

荻田家住宅は保存地区西部に位置する大規模な町家であり、代々「諸白」の商号で知られる造酒業を営んでいました。

主屋は間口10間半奥行き9間で座敷の西側に間口2間奥行き1間半の玄関と間口1間半奥行き5間の茶座敷が付きます。主屋の裏（南）側には、三階蔵（寶蔵）、二階蔵（米蔵）、土蔵（一連二区画）酒蔵3棟、長屋（長屋門付）など、酒造に必要な建物が全て揃っています。

荻田家は、元和八年（1622）に津山に移住し、宝暦八年（1758）に六代、治七郎が現在の地で造酒をはじめ、現在に至っています。

現存する建物は、家伝では宝暦二年（1752）建立と伝えられます。

【主屋】

総間口15間半に及び、壁は漆喰塗腰下見板張りを基本に、格子・出格子・海鼠壁・袖壁・煙出しなど、津山の町並みのあらゆる魅力的な要素をそなえています。

また、主屋のすぐ南には城東地区唯一の三階蔵（寶蔵）が現存しています。

【酒蔵】

酒蔵は主屋の南に、米蔵、土蔵（七番蔵）、酒蔵（槽場・五番蔵）、酒蔵2棟（三番蔵、四番蔵）長屋門等がいずれも塗籠めで造られています。

特に三番蔵、四番蔵は漆喰塗籠め造りで腰と隅に海鼠壁を使い、窓は塗籠め格子に庇を付けた形式の建物で、往時の造り酒屋の空間を彷彿させます。

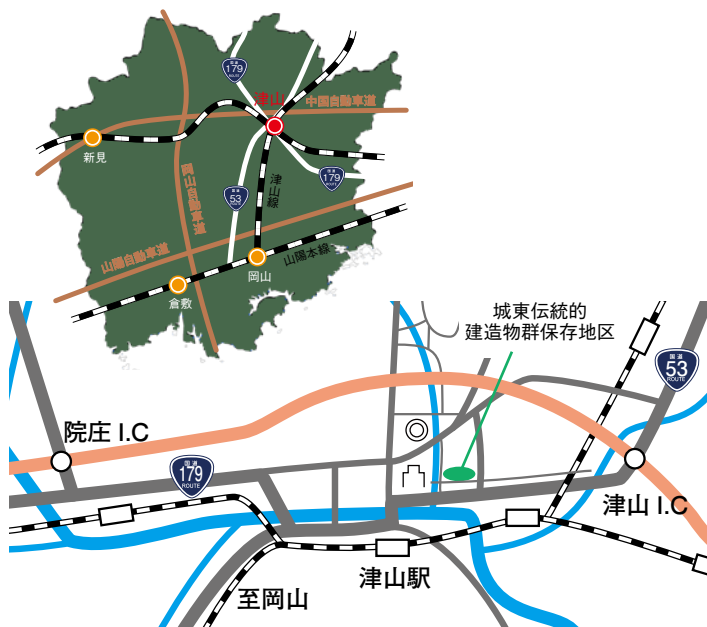
【長屋】

長屋は荻田家酒造場の南端を示す建物であり、漆喰塗籠め造り、屋根切妻造り棧瓦葺き、腰板壁の建物で、中央近くに門が設けられ、板扉が建て込まれています。

このように、荻田家住宅及び酒造場は保存地区の中でも最大規模の町屋であり、なおかつ造り酒屋の建物群をその奥にほぼ完全に残しています。また津山城下町の酒蔵のなかで、唯一現存する貴重な遺構です。



周辺地図及びアクセス



津山市までのアクセスは

自動車でのアクセス

中国自動車道（津山IC/院庄IC）大阪から約2時間

- 主要国道
- ・R53(岡山から約1時間30分)
 - ・R53(鳥取から約2時間)
 - ・R179、R181、R429 他

列車でのアクセス

- JR 津山駅
- ・津山線（岡山ー津山）
（岡山から約1時間30分、快速なら約1時間）
 - ・姫新線（佐用ー津山ー新見）
（佐用から約1時間、新見から約1時間40分）
 - ・因美線（鳥取ー津山）（鳥取から約2時間30分）

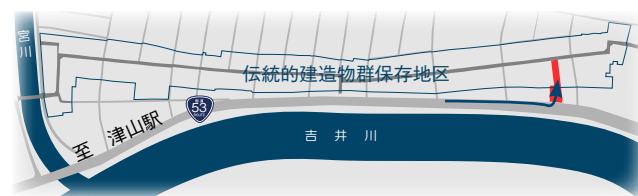
高速バスでのアクセス

- ・大阪ー津山、京都ー津山、神戸ー津山
（所要時間いずれも3時間程度）

駐車場案内

城東観光駐車場

地区の東側、国道53号線からアクセス可能。
（但し国道53号線西行きは中央分離帯により右折しての進入不可）
バス4台、乗用車16台駐車可（無料）



重要伝統的建造物群保存地区

城 東



津山市

津山市教育委員会

城東地区の沿革

津山城下町の城東地区

津山城下町の形成は、慶長8年（1603）に森忠政が18万6500石の大名として入封し、津山盆地の中央部、鶴山の地に津山城を築城したことに始まります。

城東地区はその名のとおりに城の東側に南北に流れる宮川の左岸地区の城下町を指し、北の丹後山の丘陵から南の吉井川にいたる緩斜面の北側に社寺及び武家地、南の低地側を東西方向に流れる吉井川の北岸に、川と並行して延びる出雲街道沿いに町人地が形成されました。宮川にかかる大橋から東方向へ橋本町・林田町・勝間田町の3町がまず成立し、やや遅れて東側に中之町・西新町・東新町へと城下町が拡大しました。

商家町として江戸期を通じて繁栄した城東地区は、明治以降も高瀬舟による物資の集積地として賑わいました。

城東地区の町割りには森忠政によるものであり、400年が経過した現在も江戸初期以来の商家・敷地割をよく残すため、平成25年8月7日、重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

城東の町並み

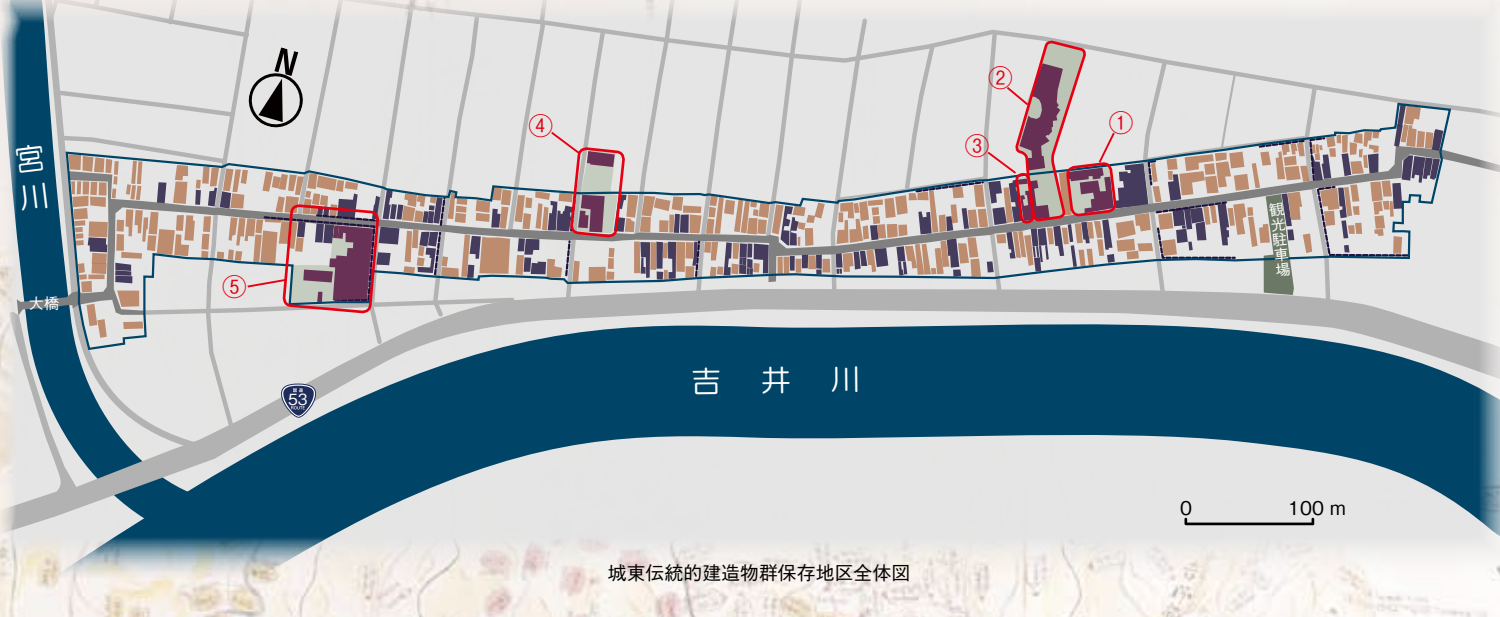
城東の町並みは、出雲街道を挟むように南北に町家が立ち並んでおり、町家は互いに壁同士を接し、あるいは柱や壁を共有しながら隙間なく延長約1.2kmにわたり建ち並んでいます。

町家の構造は、つし二階建て（中二階）平入りで、出入口は間口の東側に設定され、外壁は一階は下見板張り、二階は漆喰塗腰海鼠壁と出格子の窓を持ち、両側に袖壁を持つものが津山町家の典型的なものです。また、明治以降の近代になると二階の立ちの高い本二階建ての町家が現れるようになり、これらの町家の二階の意匠は木製建具の腰高ガラス窓となり、近世以前の建築とは若干印象が違いますが、両者が町並みに併存することで、変化のある景観を形成しています。

城東地区の町家景観で特筆されるのは、町家の表側の壁が出雲街道両側の側溝ぎりぎりに建てられるのが通例とされるため、自ずと一階庇の位置が隣同士で良く揃うこととなり、結果として庇が長く連続する景観を形成することです。この「庇が長く連続する景観」は、他の地域に見られない城東地区の特徴といえます。



庇が長く連続する景観



主な施設

①城東むかし町家（旧梶村家住宅）

国登録有形文化財（庭園は国登録記念物）

間口16間、奥行17間の広大な敷地を持つ、近世から近代における城東地区有数の商家です。町家は幕末の主屋、大正時代の座敷・蔵・洋館、昭和初期の蔵・茶室・庭園から構成されており、時代とともに増改築され、変化に富む町家として貴重です。

開館時間：9:30 から 17:00
（入館は16:30まで）
休館：火曜（祝日の場合は翌日）
12月29日～1月3日
入館料：無料



②津山洋学資料館

江戸後期から明治初期にかけて、津山藩は優れた洋学（蘭学）者を輩出しました。西洋の内科医学を初めて紹介した宇田川玄随や、幕末の対米露交渉に活躍した箕作阮甫など、津山ゆかりの洋学者らの資料を展示しています。

開館時間：9:00 から 17:00
（入館は16:30まで）
休館：月曜日（祝日の場合は翌日）
祝日の翌日・12月27日～
1月4日
入館料：高校・大学生200円・
一般300円（団体割引有）



③箕作阮甫旧宅

国指定史跡

洋学者箕作阮甫が生まれ、少年期を過ごした生家。小規模町家の典型例として貴重であり、国史跡として公開されています。

開館時間：9:30 から 16:00
休館：月曜（祝日の場合は翌日）
12月29日～1月3日
入館料：無料



④作州城東屋敷

津山町家の典型として復元された街道沿いの主屋は、休憩所・案内所・展示場として利用されています。

屋敷の北側には土蔵風のだんじり展示館を併設しており、県指定重要有形民俗文化財である津山だんじり28基中4基を展示しています。

開館時間：9:30 から 17:00
（入館は16:30まで）
休館：水曜（祝日の場合は翌日）
12月29日～1月3日
入館料：無料

